

令和 6 年度第 2 回恵庭市総合計画審議会議事録（要旨）

日時	令和 7 年 3 月 7 日（金）14：00～15：55
場所	恵庭市民会館 中ホール
出席者	小磯 修二（北海道文教大学 地域創造研究センター）
	土谷 秀樹（恵庭商工会議所）
	後藤 美江（恵庭市地域女性連絡会）
	武井 和磨（恵庭青年会議所）
	下原 干城（市民憲章推進協議会）
	北林 優（恵庭市町内会連合会）
	小田 進一（恵庭市私立保育連合会）
	今村 敏之（恵庭市校長会）
	大塚 ひろみ（恵庭市文化協会）
	船田 清（恵庭市社会福祉協議会）
	茶園 利紀（恵庭市スポーツ協会）
	島田 圭一（恵庭観光協会）
	杉本 貢（市民ワークショップ委員）
	成田 良恵（市民ワークショップ委員）
	小林 祐一（公募）
	泉谷 清（公募）
	熊野 稔（公募）
議事	・ 諮問 第 6 期恵庭市総合計画について
	・ 審議事項
	（1）第 5 期総合計画の検証について
	（2）第 6 期総合計画の基本構想（素案）について
	（3）総合計画審議会専門部会の部会長・副部会長の選出について

流れ	内容
開会	●企画振興部次長 開会のあいさつ
諮問	●市長 恵庭市総合計画審議会条例第 2 条第 1 項の規定に基づき「第 6 期恵庭市総

諮問	合計画」の基本構想の策定について諮問いたします。 (終了後に市長退席)
確認	●企画振興部次長 欠席者について説明・出席人数の確認
自己紹介	委員自己紹介(第1回欠席委員のみ)
審議事項	●事務局 審議事項 「(1) 第5期総合計画の検証について (2) 第6期総合計画の基本構想(素案)について」 説明
説明を受けての意見・質問	●A委員 以前、都市計画マスタープランの説明会に参加しましたが、このような市の審議会に出席するのは初めてとなります。 恵庭市全体でどのようなまちづくりをしているのか気になります。現在、国道36号線、高速道路、JRといった交通機関でまちができていますが、今後、まち全体の交通網はどのようになるのか、島松・恵み野・恵庭という3つの駅を使い、地区の特色をどのように出していくのか気になります。 恵み野駅を中心に病院、小学校などが造られ、栄えていましたが、その一角の商業施設がなくなってしまいました。恵庭に住んで35年経ちますが、そういった商業施設がなくなると、買い物が不便になります。恵庭は分断されたまちのイメージがありますが、今後どのようにまちづくりをこの計画の中で進めていくのか気になりました。 ●会長 将来どのような恵庭の姿を目指していくのか、そこを含め計画の中で発信していただきたいというご発言だと思います。その趣旨はとても大事だと思います。
	●B委員 恵庭市内の経済がきちんと循環しているか非常に気になります。経済が循環していないと、どんなものを作っても上手くいかないと考えています。このことについて本審議会でお話していきたいと思っています。以前いただいた資料の中に「これまでの取組を検証し、恵庭市が有しているポテンシャルを最大限に発揮し、地域経済の強化を図る。」という記載がありましたが、これはとても大事だと思います。恵庭市の経済は少し弱いと思うので、それをぜひ検討いただきたいと思います。また、北海道開発局が作成した恵庭市産業連関表について、可能であれば皆さんに説明し、知っていただければと思います。観光の項目で産業連関表の活用とあります

説明を受けての意見・質問	が、観光だけではなく恵庭市の産業全体を見ているもので、課題がわかりますので、お願いしたいと思います。 ●会長 B委員と同じ思いで、マクロな恵庭の地域経済の分析が非常に大事だと思います。昨年度、私が所属している北海道文教大学地域創造研究センターの取組で恵庭市の産業連関表を作成し、説明会を行いました。必要があればこの総合計画の策定作業の中で、説明させていただきたいと思います。
	●C委員 全体的に非常にまとまっていると思います。第5期総合計画の検証結果において、矢印が右肩下がりになっている点は、第6期に向けてどのようにしていくのかは一つの課題になると思い、課題解決の方向性がどこかに示されているといいと思います。 第5期総合計画の検証結果の目標18「地域の特性を活かしたコンパクトなまちづくり」について、第6期の基本構想「まちの魅力を生かした 交流やにぎわいが生まれるまち」に繋がっていくと思います。今後、現実的に実行していくためには、立地適正化計画が非常に大事になると思います。立地適正化計画は全国的な人口減少、少子高齢化の中で行財政の効率化も含め、人々がコンパクトに住んでいくことが利便性も高くなるという方向性で、コンパクトなまちづくりを実際に計画立てていくものです。立地適正化計画を立てなければ国からの補助金がもらえず、全部市費で行う必要性が出てきます。 先ほど、3駅を中心とした賑わいある拠点づくりを大事にし、そのまちづくりの方向に進む方向性がありました。駅中心に都市機能誘導区域、居住区域、誘導施設を作ります。公共施設に民間施設も入っているというメリットがあります。特にコンパクトなまちづくりでは、市街化区域の居住誘導区域内に空き地が放置されている非常にもったいない話があり、そういったところには複合施設を充実させていくということも大事で、基本目標5「まちの魅力を生かした 交流やにぎわいが生まれるまち」に繋がってくると思います。 民活について、P a r k－P F Iは「はなふる」で取り入れられており、さらに民間に権限があるコンセッション方式というものもあります。公民連携、民活をもっと取り入れることも考えられます。 私は恵庭市に移住して1年になります。今後、移住者を増やす観点では、行政のサービスのほかに町内会で相談に乗ってくれるような、移住アンバサダーがいるといいと思いました。

説明を受けての意見・質問	●D 委員 小学校教員の立場からお話させていただきます。第5期の検証では「子どもの自立成長を促す学校教育」は目標達成ということで、学校への様々な支援に感謝申し上げます。 現在、課題となっているのは不登校が多いということです。実際に不登校に対し様々な策をとっていますが、引きこもってしまった子もいます。子どもの選択肢の中に、社会と繋がりを持つための機会や施設があるということが、将来大人になったときに社会の中で何とか生きていけるのではないかと思い、そのような繋がりを持つところを増やしていただけるとありがたいと思います。 特別支援学級に在籍する子どもたちがすごく増えています。本校は、全校児童 600 名弱のうち約 40 名が特別支援学級に在籍しており、昔と比べると相当多いと感じます。他の学校でも特別支援が必要であったり、障がいのある子どもたちがいます。それに対して、これからも手厚く支援をお願いしたいと思います。 恵庭市には小中高大が揃っていますので、恵庭で育った子どもたちが中学校・高校にそして大学に進学していく流れができればいいと思います。
	●E 委員 文化・芸術の立場からお話させていただきます。市内には文化・芸術の活動をされている方がいますが、それに関しての支援が少ないと感じています。高齢になってきているので、例えば色々なところに発表に行くときに、福祉とは違う支援が欲しいと思っています。文化・芸術は発表することが自分たちの喜びですが、他市町村に行き、発表する活動がなかなかできなくなるということが起こっています。 ブロンズ像の寄贈を恵庭市で受け、どのように展示するか実行委員会を立ち上げて検討しています。文化・芸術活動という言葉が堅く聞こえてしまうので、幼稚園や小学校の小さいときから自然に触れ合えるようになればいいと思います。 恵庭市は住みやすいまちとして評価を得ていますが、それは大きなまちに出て行きやすい、交通の便がいいということで選んでいる方も多いと思います。何か物を買に行くときに他のまちに行くのではなく、商業施設を充実させるなど、恵庭市内でも賄えるようになればいいと思います。
	●F 委員 生まれも育ちも恵庭で 65 年以上になります。昭和 45 年に当時の特例により人口 3 万人で市になりましたが、それから 55 年経過し、人口 7 万人と倍増しました。その間、当時の市長を中心に色々な取組により今の人口に

説明を受けての意見・質問	なったということで、感慨深く思います。 今までは3駅でしたが、今後はサッポロビール庭園駅にも電車が停まるということで、4駅中心になってくると思います。恵み野開発、黄金の区画整理によってたくさんの住民が他のまちから来て、大変嬉しく思っています。そういった中で、この総合計画は大変難しいものになると思います。 私たち社会福祉協議会は、昭和31年に法律に基づき設立され、もう少しで70年を迎えます。現在、恵庭市内の地域福祉事業の多くを、恵庭市からの委託などにより社会福祉協議会が行っています。恵庭市の地域福祉を任されている団体ということで日々奮闘しており、国では約10年前に地域包括ケアシステムという、2025年に団塊世代が75歳を迎えても地元でいつまでも暮らしていけるようなシステムを作りました。新しい総合計画では、さらに推進していくという内容になっています。恵庭市の高齢化率が30%程度になり、3人に1人が65歳以上というまちになっています。今後の恵庭市はどんどん高齢化が進むので、対応できる施策を恵庭市に考えていってほしいと思います。 SDGsのマークがそれぞれの計画に入っていますが、字が小さく読めないので、全体図を別のページに表記いただければ、わかりやすいと思います。
	●G委員 観光に関して目玉になるようなものはなく、恵庭はどちらかと言うと田舎で、都会に出て行きたい方が多いと思います。それを食い止める手段として、サッカーチームやプロ野球二軍、ラピダス、エスコンといった環境があるので、結び付けるまちになるといいと思います。 駅を中心としたコンパクトなまちづくりには長い時間を要することが考えられますので、早く取り組み、また、駅周辺だけが活性化されるのではなく、恵庭、恵み野、島松が繋がるような構想が必要だと感じました。 災害が頻繁に起きているため、もっと市民に伝えることが大事だと思います。何かあったときにはどこに避難するのかなど、全般的に知らないことが多いと思います。 まちに魅力を感じる要因に除雪があると思います。「こんなに雪が降っているのに、恵庭は他のまちに比べて除雪されている」と感じてもらうのも大事だと思います。
	●H委員 防災について、町内会で防災計画の作成や避難所の検討など、強化が進んでいます。

説明を受けての意見・質問	除雪について、他のまちより少なく、降雪に強いまちだと思っています。除雪状況についての問い合わせについて、市へ来ているかと思いますが、私たち町内会の方へは来ていません。 ● I 委員 検証結果の中に、市が知識を提供するための講演や催しの実施に対し、市民の認知度がだんだん低くなっているものがありました。市民が意識を持つような発信が大事だと思います。 私も町内会活動を行っていますが、町内会、地域での人間関係の繋がりが大事だと思います。それが手本となり、いいまちになると思いますが、これから町内会の活動がどんどん低迷下していく状況の中で、市としてどのように活性化していくか課題だと思います。 一人暮らしの高齢者がどんどん増えていく中で、それに対しての支援がもっと具体的になればいいと思いました。 ● J 委員 私は0歳と2歳の子どもを育てています。以前、夜間に子どもが高熱を出し、夜間・休日急病診療所に相談したのですが、子どもは診られませんと言われ、とても困った経験があります。その時は他市に連れて行き対応してもらえましたが、市内の夜間・休日急病診療所で子どもを診てもらえれば、とても子育てしやすいと思います。 私は青年会議所からこの会議に参加していますが、私以外、年齢が高い参加者の方が多いと思います。私は20代ですが若者は私だけではないので、アンケートなどで意見を聞く場もあると思いますが、もっと色々な方がこのような会議の場にも参加して意見を言ったり、お話できたりできればいいと思います。今の若者は近所付き合いも苦手で、町内会活動に参加しなかったり、ご近所さんにも挨拶しない方も増えていると思います。恵庭市に限ることではありませんが、そのようなことを盛り込むといいまちになっていくと思います。 私は障がい福祉事業に携わっています。自立支援協議会では町内会、民生委員、各事業所や介護の方が参加され、細かい分類だと年に十数回開催していますが、札幌では恵庭ほど回数が行われておらず、恵庭はとても充実していると思いました。社会支援の点では、障がい者の方々の住む場所がない、支援を受けられないというところで、札幌や道外に行って、治療や支援を受けるというところで困っている方がすごく多いです。せっかく自立支援協議会などしっかりされているので、それもまちの魅力としてうたえるといいと思いました。
--------------	---

説明を受けての意見・質問	●K委員 今は市民憲章推進協議会にありますが、以前は町内会長を24年務めておりました。恵庭は空港と札幌の間という、位置的に非常にいいところにあると思います。30年以上恵庭に住んでいますが、隣近所との付き合い、繋がりがどんどん薄まっていると思います。例えば、何か災害があったときは、その繋がりで助け合っていけるという状況になれば、安心感があると思います。私は本審議会で、地域の繋がりをテーマに発言したいと思います。
	●L委員 基本目標5の「まちの魅力を生かした 交流やにぎわいが生まれるまち」について、「はなふる」を活かしたまちづくりをどうしていくかということが大きな課題になると思いました。ガーデンフェスタ北海道2022が恵庭で開催され、「花のまち恵庭」と言われていますが、本当にそうなのかと思うことがあります。なぜかと言うと、花いっぱい文化協会が約60年活動していますが、活動内容を市民の方が知らないということがあります。私も花いっぱい文化協会の活動を行っていますが、PRが少ないと感じ、恵庭が「花のまち」であることを市民が思うようなまちづくりが必要だと思います。交流やにぎわいが生まれる「はなふる」をどのように活用していくか課題になると思うので、観光のまちづくりについてこれから皆さんと話を進めていきたいと思っています。
	●M委員 恵庭には私立の幼稚園、保育園、こども園と市立の保育園1か所の保育施設があります。保育連合会では、名前は幼稚園や保育園とついている園も1園を除いて全て認定こども園です。認定こども園とは、幼稚園と保育園が一つになっているものです。学校教育法ができたときには、日本の学校は小学校から始まるとされていましたが、約10数年前に幼稚園から始まるということになりました。幼稚園は学校、保育園は児童福祉施設、それが一つになっていますので、0歳から6歳までの小学校前の教育を担っているのが保育施設です。保育園では親御さんの様々な課題に応じて、直接一緒になって子育てをするということが課題です。教育と親の就業支援という、二つの大きな課題に直面しているのが保育施設の現状です。そういった意味では、認定こども園は園の中で子どもを安全に保育すればいいというだけの施設ではなく、地域社会に出て行って様々な活動を行うことが要求されている施設でもあります。今回示された基本目標7の施策に「保育環境・小中学校教育の充実」とありますが、保育の位置づけが明確でないと感じています。また、本審議会の論議を保育連合会に持ち帰り、

説明を受けての意見・質問	意見をお伝えできればと思います。 ●N委員 市民ワークショップには女性や外国籍の方も参加され、10年後の夢を語り、非常にいい集まりでした。前回会議でワークショップの資料が配布されていますので、ぜひ読んでいただきたいです。 計画作りをマネジメントの観点から考えると「ヒト・モノ・カネ」の3つのワードが出てくると思います。一つはヒトで、現在、人口が7万人台に微増、横ばいとなっていますが、この原因は社会増で、自然減はマイナスになっています。新聞では人の取り合いという指摘をされていますが、何が大事かという、いかに自然増を自力で増やしていくのか、このまちを作っていくのかというところだと思います。若者や女性に対する施策、支援を大胆にやってはどうかと思います。 町内会や人の繋がりというお話がたくさん出ており、何を媒体にして繋がるのかと考えていましたが、私は子どもだと思います。しかし、これから将来を考えると、先ほど保育施設のお話もありましたが、女性を大事にすることも必要だと思います。 ヒト・モノ・カネのカネの部分では、財政健全化が求められていると思います。恵庭市の歳入歳出はどのような規模で、健全なのか、10年後も健全なのかを学べたらいいと思いました。 冒頭に諮問がありましたが、前回会議資料では8月に最終取りまとめという日程になっています。10年前の第5期策定時は約1年間かけて93ページほどの答申を提出された記録がありましたが、今回は5か月ということでタイトな日程だと思います。
	●O委員 大学で社会福祉を学んでいます。私は住みやすいまちとは、生きやすいまちだと思います。生きやすいとは一人一人がどのように生きていくのが一番生きやすいのか、胎児の期間から高齢者、亡くなるまで「全ての人」というところに視点を置かないといけないと思います。高齢者、乳幼児、障がい者、「全ての人」というところをもっと考えなくてはいけないと思っています。 高齢者の面では、去年4月の法改正により介護事業所が全国的に廃業となっています。それは恵庭市でも同様で、考える必要があると思います。 子どもについては、先ほどのお話にもありましたが、発達障がい児が増えています。しかし、それに対する対応が足りないと感じています。例えば、スクールカウンセラーが月2回配置されていますが、巡回ではなく配置が必要だと思います。スクールカウンセラーはカウンセリングが仕事で

説明を受けての意見・質問	あるため、小学校と地域を繋ぐためのスクールソーシャルワーカーを配置する意味があると考えています。子どもを大事にすることはその子どもがいずれ高齢者になるので、全員に関わることだと思います。 医療に関して、恵庭市にはお産ができる病院がないため、子どものことについて足りないと思います。救急に関しても3次医療がなく、他市の大きな病院に回すことになっており、医療の体制もっと進むべきと思っています。
	●副会長 都市計画マスタープランでは3つの駅を中心としたコンパクトシティでということでしたが、この基本構想ではあまり触れられていないように感じます。計画の中でそれぞれにあてはまるような施策が本当にできるのかの検討をしているのか、どこか置き去りになっていいのかというところは疑問に思います。恵庭は実現していて、島松は実現していなくても、まち全体として実現していると言えるのか、それは疑問に思います。そのようなことはこの計画に盛り込むことなのかわかりませんが、考えていかなければならないと思います。
	●会長 昨年9月に総合計画シンポジウムにおいて、市民の皆さん、市の関係者の前で、基調講演でこれからの新しい総合計画の意義についてお話させていただきました。そこでは、総合計画の意義というのは恵庭市が何を目指していくのかという目標を共有することであり、目標を共有し目指す目的が明確であれば強い地域になる。その思いで、この総合計画策定に取り組んでいただきたいという趣旨のお話をしました。基調講演での趣旨については是非総合計画に活かしていただきたいと思いますが、今日は改めて2点お話ししたいと思います。 私は半世紀近く、国の行政官として各地域の総合計画の策定に関わってきました。大事なことは新たな潮流にどのように向き合っていくかということだと思います。日本では急速な人口減少、高齢化が進んでおり、一方で恵庭ではラピダスの立地という外発的な動きがある中、まちづくりの長期戦略を作り上げていくことは非常に難しい作業で、そこが今回の総合計画の大きな特徴だと思います。一番大事なことは、恵庭が置かれている状況を科学的に分析して計画、戦略を構築していくことだと思います。そのためには、先ほど委員からお話がありましたが、恵庭市が置かれている経済・産業分析を行う必要があるということで、地域創造研究センターで恵庭市の産業連関表の作成を手掛けました。今回の総合計画では、恵庭市の産業連関表で示された地域の特性、そこには課題もあれば長所もあります

説明を受けての意見・質問	が、そういったところを踏まえ、この総合計画の作業を進めていただきたいと思います。恵庭市の産業連関表のポイントを簡単にお話すると、企業の立地も多く、大きな生産力を持っていますが、一方でそこで生産されたものが外に流出している割合が大きいのです。したがって恵庭市の単位で見ると、いわゆる自給率が低く、通過型産業が多いという経済構造です。先ほどB委員がお話されましたが、これから人口減少で経済需要が縮小していく時代においては、域内での連関力を高める取り組みが重要です。資料には、産業連関表が観光振興だけに位置づけられていましたが、恵庭全体の産業連関力を高めていくことが必要です。多くの委員から地域のつながりというお話がありましたが、地域内の連関力を高めていく、地域の中での循環力も高まって、つながりの強い地域になっていくといことは経済的にも大事な取り組みです。 地域創造研究センターでは、これからの都市政策の新しい提言、先駆的な都市政策に向けての提言が一つの大きなミッションになっていまして、昨年度から「文化創造都市への挑戦」として、文化創造都市プロジェクトを進めています。これは恵庭市の都市政策への提言でもありますので、今回の総合計画にぜひ盛り込んでいただきたい視点です。文化創造都市の「文化」は大変幅の広い概念です。先ほどE委員がお話をされた文化・芸術よりも幅広い、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育なども含む広い意味合いで使っています。なぜかという、人口減少という大変厳しい状況の中、これからの都市政策を進めていくには、改めて足元にある幅広い地域資源を文化資源として、そこに価値をつけて、地域の力を高めていくことが必要です。そこで大事なものは、恵庭の人々が足元にある資源を文化資源をしっかりと再認識することです。 例えば、恵庭市には独自に取り組んできた読書文化政策がありますが、それは素晴らしい地域資源だと思います。ブックスタート、学校司書の配置など、子どもたちを育てる営みの中に自分たちの読書文化をうまく当てはめて普及させていきながら、都市政策を展開していくというのは素晴らしい文化資源だと思います。さらに読書文化条例という形で、政策として確立し、まちじゅう図書館という取り組みで、市民の方たちと一緒に読書文化を広めていこうとされています。市民と一緒に新しい計画づくり、都市政策を進めていくというのは、なかなか難しいのですが、市民の方々とこれまで一緒にやってきた、このような伝統的な取り組みを文化資源として再評価、検証しながら、さらに磨きをかけていくことが大事です。 ●副市長 基本構想は、昨年のワークショップのご意見を最大限盛り込んだ内容と
---------------------	--

説明を受けての意見・質問	なっています。市民の方からいただいたご意見を、さらに本審議会、専門部会で検討のうえ、完成させていただきたいと考えています。これから専門部会を2回程度、審議会を3回程度開催予定とさせていただいていますが、回数が足りなければ追加して議論いただくことも問題ないと考えています。 また、財政のお話もありましたが、恵庭市は一般会計予算360億円と過去最大となり、市税収入は90億円という状況です。余裕のある財政事情ではありませんが、今のところ健全経営させていただいています。 総合計画の内容は、できないものも出てくる可能性がありますし、載っていなくても緊急性があるものは順次対応していきたいと考えています。これから10年間の計画になりますので、忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願いします。
審議事項	●事務局 審議事項 「(3) 総合計画審議会専門部会の部会長・副部会長の選出について」 説明 ※部会ごとに部会長・副部会長を選出 ●事務局 ・共生・生活環境部会の部会長に武井委員、副部会長に成田委員 ・教育・福祉部会の部会長に船田委員、副部会長に大塚委員 ・産業・観光・まちづくり部会の部会長に小林委員、 副部会長に本日所用により退出された熊野委員の推薦がありましたので、事務局より改めてご依頼いたします。
閉会	●企画振興部次長 閉会のあいさつ